

綱 領  
1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。  
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる发展を期する。  
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

# 日赤新労

平成15年  
3月15日 行  
第180号

発行所  
日本赤十字新労働組合連合会  
(日赤新労)  
東京都港区浜松町2-6-8仲和ビル1F  
TEL(03)3433-3028  
FAX(03)3432-4560  
Eメール sinrou@nyc.odn.ne.jp  
ホームページ http://www.shinro.org/  
発行責任者 小宅政恵



二月一十三日から二十五日の三日間、今が見頃の梅の香漂う静岡県掛川市「ヤマハリゾート・つま恋」において、全国加盟単組より代議員及びオブザーバー等約百名の参加を得て、第四回定期全国大会が盛大に開催された。平成十五年度運動方針や要求書等について慎重な審議が行われ、役員選挙では二名の新役員が信任され、新執行体制のもと、今年度も労働条件の改善のため力強く闘って行くことを確認した。

初日は、開会のことばの田口赤、副議長に坂上正後、参加者全員で日赤新労

労働歌を合唱し、資格審査・成立確認を経て大会役員及び議長團が選出され、議長には河崎哲博氏(筑前山

大曾根洋一氏(鳥取日赤)が選出された。大会開催にあたり、濱崎中央執行委員長が挨拶に立

ち、次のように述べた。

「経済再生プログラムを進める政府政策にもかかわらず、長期にわたって低迷を続けるわが国経済はかつてない深刻なデフレ不況に陥り、雇用情勢はますます悪化して、デフレ・スバイラルが危惧される状況となっている。

こうした中、労働者の生

活は五年連続で収入及び可

能性の減少を続けてお

り、二〇〇三年には社会保

険料等の負担増となること

から、さらなる可処分所得の減少は不可避となつてい

る。

さて、昨年の日赤新労の

取り組みを振り返つてみると、ベア交渉は、人事院勧告の制度始まって以来とい

う俸給表のマイナス改定の

影響を受けて、連年の実質年収ダウンを受け入れざるを得ないと、ベア交渉は、人事院勧告の制度始まって以来とい

う結果となつた。しかし、

特殊勤務手当や昇格基準の

改定のほか、日赤新労の長

年の要求であった定年制度

と再雇用制度、定年前早期

選挙が行われ、説明された十

二月一日には、出席單

組から提出された幾つかの

議題について討議が行われ

ていると報告があり、承認

され、平成十五年度役員選

挙が行われ、説明された十

二月一日には、出席單

組から提出された幾つかの

## 新本部役員紹介

中央執行委員長 濱崎 健藏  
中央執行委員 佐合 政彦



中央会計  
佐藤 浩光



中央圖書館  
小屯政惠



中央副執行委員長  
坂本 樹由



川島環



中央執行委員  
佐合 政彦



# 就任にあたつ

## 中央執行委員長 演

第四回定期全国大会において、前年に引き続き中央執行委員長に選出されました。四期目の就任にあたり、ご挨拶申し上げます。

日本経済はデフレから脱却する道筋が見えないまま依然として高失業率状態が継続するなど極めて危機的な状況の中、二〇〇二年の春闘では「賃上げは論外、定期の凍結・見直し」とする日本経團連と、「雇用確保・賃金カープ維持」と生活防衛を掲げる連合の攻防は、ベアゼロや定期昇給の停止、一部には基本賃金の引き下げという厳しい結果で終きました。

我々の基本賃金の引き上げ交渉では、給与改定史上初の俸給表のマイナス改定を受け入れざるを得ないという、大変厳しい結果となりました。最終決定にあつては、中央委員並びに組合員の良識ある考え方と冷静な判断、絶大なるご支援に深く感謝申し上げます。

また、日赤新労長年の要求であった定年制度と再雇用制度、定年前早期退職奨励制度及び初任給基準の統一については、二〇〇三年四月から実施されることとなりました。本社交渉における日赤新労の基本的な考え方について、短い期間にもかかわらず、「定年退職制度のあり方に關する検討委員会報告」としてとりまとめて精力的に取り組んで

いたいたい委員各位には、厚く御礼を申し上げます。さて、今春闘の状況は、昨年にも増して厳しくなることが予想されます。労使ともに雇用の維持を優先するとしており、ベアゼロ、定期昇給停止、さらには賃下げさえも受け入れざるを得ない状況となつております。

企業の生き残りをかけた学習交渉が行われるものと想われます。我々赤十字各施設の運営状況を見ると、社資収入の減少により社員制度の見直しを求められていて、支部、医療保険制度・診療報酬の改正と共に生き残りをかけた経営戦略の策定と実施が急務の病院、新たな血液センター等、いざれも厳しい状況にあり、職員の雇用と職場を存続していくためには、財政基盤の安定が最優先課題となつています。

こうした中、日赤新労の本年度の基本賃金の引き上げ三・〇%、諸手当の改善等は、職員の勤労意欲を削がないための最低限の要求であり、実現するためは、組合員が一致団結して努力しないかなければなりません。また、定年制度、再雇用制度等の四月からの実施についても、我々の監視が必要です。

本年も大変厳しい状況ではあります、日赤新労の

「労使協調」路線を維持し、要求実現のため、皆様のご支援のもと、真摯に本社交渉に取り組んで行きたいと思っています。

「二一世紀にはばたく日赤新勞」をモットーとし、新たな時代に対応できる体制づくりに本部役員一同頑張ってまいりますので、引き続き、組合員各位のなお一層のご支援ご協力をお願いしますとともに、皆様方並びに単組、施設のますますの発展を祈念して就任の挨拶いたします。

新任挨拶

盛岡赤十字病院 川原 猛

私は、職場では診療放射線技師であり、家庭では二児のパパです。

妻が同病院の看護師である事から、子供が赤ちゃんの頃から積極的に育児に参加をし、一年を通してのスケジュール調整も早八年となりました。現在も変わらず、日々の主夫業務を違和感なくこなしております。

このような家庭状況(主夫)の為、本部役員の過酷なスケジュールは少々つらい部分がありますが、何事も経験なくしては始まらないと思い、周囲の方々のお手伝いをさせていただき

# 組合結成50周年及び 新労加盟40周年を祝う

る活動により、ますます発展されることを期待申し上げ、選任のご挨拶といったします。

会場後部の大スクリーンに映し出された景品と当選のアナウンスに歓喜の声が上がりました。祝賀会最後には、坂本中央副執行委員長の音頭による一本締めで閉幕いたしました。

当職員組合結成以来初めての式典に際し、ご支援協力いただいた皆様方に御礼申し上げますとともに、今後益々のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

(執行委員長・齋藤洋一)

◆◆◆◆◆

◎支部部会開催

一月十一日(土)、東京都港区「島崎会館」において、支部の専門部会が開催された。議題には「組織」に関するものと「賃金・労働条件」に関するもののが取り上げられ、活発な意見交換が行われた。

支部各単組における種々な問題について、相互情報や意見を交換し合うことは、組織強化を図る意味からも有意義であった。

# 組合結成50周年及び 新労加盟40周年を祝う

—足利赤十字病院職員組合—



第1回由由委呂合室内

○平成15年5月11日(日)～12日(月)  
○「ホテル木暮」  
群馬県北群馬郡伊香保町135  
TEL 0272-72-2701(代)